

平成 30 年度 名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 31 年 2 月 14 日に「平成 29 年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成 31 年 3 月 19 日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 平澤 琢二 (名古屋市中村区歯科医師会 会長)
2. 社本 太郎 (株式会社モンシエル 代表取締役社長)
3. 茶谷 敦孝 (株式会社さんぼう 企画営業第 2 グループリーダー)
4. 松永 奈津希 (歯科衛生学科 同窓会会長) ※欠席
5. 澤口 朱里 (製菓製パン本科 1 期生 同窓会員)
6. 中尾 聡 (学校法人 大橋学園 法人本部本部長)
7. 服部 正巳 (名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 学校長)
8. 岩田 壮介 (名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 事務長)
9. 杉本 佳史 (名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 副事務長)
10. 廣田 裕紀 (名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 事務職員)

●オブザーバー (本校教職員)

1. 加藤 直美 (名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 歯科衛生学科 学科長)
2. 後藤 一宏 (名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 製菓製パン本科 学科長代理)

以上 11 名

2. 平成 30 年度 自己評価 (平成 29 年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：全教職員間での育成人材イメージの統一、共有が必要。また、学科によっては衛生概念の刷り込みも必要。保護者への周知、業界のニーズとのギャップ埋めも要検討。職業意識の確立、専門学校としての在り方を振り返る。</p> <p>改善策：業界との関わり、繋がりでの再確認。子供に無関心な親に少しでも興味を持ってもらえるように働きかける。衛生概念、職業の魅力を教員から理解を深めていく。学校の理念等は授業での伝達、提示等の方法で学生に浸透させる。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：人事、給与、評価に関する規定等の整備、情報システム化が進まない様子。担当変更にて備えての引継ぎ資料の作成。広報、OC 材料費の削減。S-wing (クラウドシステム) の操作、処理に時間がかかること。</p> <p>改善策：法人規定の見直し。教員の情報処理能力アップ。引継ぎ体制の確立。適した材料発注。入学者増での給与への反映。PC 技術の向上。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生対応方法の研修をもっと行えると良いのでは。後輩教員の育成。3・8 の外部評価が実践に繋がらない部分もある。教員、助手の定着率の向上。</p> <p>改善策：ハラスメント等の研修実施へ。教育者としての姿勢を示し、教員としての目標を設定してもらう。授業研究の取り組み。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：卒業後の情報収集力の向上。卒業後の姿を思い描けるような流れに。退学者が多い。本当に学生の希望分野なのかが不明な場合がある。就職活動の開始が遅い学生が気になる。学生と話せる時間が少ないこと。</p> <p>改善策：同窓会、連絡網の整備。学生の質に合わせた指導 (表に出さない学生も多いため)。卒業生の活躍を生々の声で在校生に発信する。卒業生の現場環境が悪い情報については、より詳しく収集。保護者、高校教員への職業理解向上 (OC での発信含む)。学生との時間をもっと設ける。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：卒業生への支援体制が足りないと感じる。保護者との連携。学生とじっくり話せる部屋があると良い。</p> <p>改善策：再就職支援の実施 (すなわち卒業生との連携強化)。保護者も交えた学生進路の相談。学生との相談室の設定。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：防災に対する組織力の強化。災害に備えた設備の点検、把握。防災マニュアルの確立。海外研修の内容面、コスト面の見直し。</p> <p>改善策：設備点検の強化、防災グッズの備え。掲示板を利用した防災に関する啓発。</p>
(7) 学生の受け入れ 募集	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：定員充足ができていない学科には更なる向上を。年々早くなる高校生の動きへの対応。個人個人に合わせた対応。</p> <p>改善策：学内進学促進、外部向け媒体の精査、募集活動の根本見直し、伝達方法の改良。</p>

(8) 財務	評価：適切である。 課題：財務に関する知識をもっと教職員が深めること。 改善策：学内の研修会等への積極的な参加。
(9) 法令等の遵守	評価：適切である。 課題：個人情報の掲示物の保管方法、自己評価に対する改善。 改善策：個人情報の掲示物の保管方法を厳重にする。改善点の明確化。
(10) 社会貢献・ 地域貢献	評価：ほぼ適切である。 課題：地域貢献の充実、ボランティア活動、公開講座や教育訓練が不足している。 改善策：教員間で考案をしていく、外部から委託される存在になる（学校の認知を高めること）。

3. 平成 30 年度 学校関係者評価 (平成 29 年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	<p>大項目で「適切」といった場合においても、小項目でひとつでも不適切であった項目に対しては、今後、課題を解決しつつ改善に努めるとともに、内部での情報発信力を少し強めるだけでも「適切」に転じる余地もあるため、これまで以上に教職員への情報発信を徹底していただきたい。</p> <p>また、同窓会や業界団体との連携を強化することで、学生のモチベーション維持、中退率の減少、ひいては卒業生の離職防止まで結びつく可能性も高いため、今後もさらに強化していただきたい。</p>